



欲望という経済

令和7年1月27日

黒田インターナショナル コンサルティング LLC

黒田 毅

欲望が支配する資本主義は、今日の新しい技術革新とともに部分的な現実を与える。しかし人々は富と名声を希求し、それらが現実を与えることは否定できないのである。

これらは経世済民という思想が存在することを留意したい。経済は人々の食生活を担うことが本来の現実なのであり、技術進歩はより優れた生活の形成を与える手段なのである。

これらは企業が自己の倫理的な判断と社会責任における自己という正しい選択を新たに提案するものである。

これらは富という渴望から、社会との共生における新しい未来という選択を提案するものである。

しかし企業は、マネーゲームという金融や経済の現実を否定することはできない。新しい自己環境はこれら現実への正しい対処を求められるのである。

これら企業における企業倫理性の要求は、正しい企業経営を与える手段である。これらが企業経営における環境とルールを与え、企業の健全性を実現できるのである。

他方においてはマネーゲームにおける現実が存在するのである。そのため資本力と製品力における企業の確立は、これら現実へ企業の安定性を要求するものなのである。

欲望は制限を得ず、世界はこれらにおいて階級社会を与えるならば、社会的弱者を底辺とした新しい世界の構築が存在するのである。

これらは、企業が企業風土と就業環境を新たに社員の参加における企業経営の健全性を模索することはできるのである。

これらは競争における争いから、融和における企業内における協調と融和における企業経営という選択を提案できるのである。